

平成 26 年度

事業報告

(第 4 期)

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

一般財団法人 宇宙科学研究イニシアティブ

事業報告

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

I. 法人の概況

1. 設立年月日

平成23年12月2日

2. 定款に定める目的

「次代を拓く科学技術の課題への貢献をめざし、連携する大学、国立機関、及び民間事業者等を主体とした団体、個人の支援を仰ぐことによって、新技術望遠鏡の製作、観測用天文台の建設及びそれらの公開事業や啓発に関する事業を行い、あわせて、宇宙・天文の普及事業を通じて、人類の新たな価値観、豊かな文化・社会を醸成し、その持続的発展に寄与することを目的とする。」

3. 定款に定める事業内容

1. 新技術望遠鏡の製作、天文台ドーム整備などに関わる活動
2. 新技術望遠鏡の公開活動と、関連する啓発活動
3. 事業実施に必要な資金の調達と、運営全般に係る活動
4. 前各号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況

種類	当期末	前期末比増減
一般賛助会員	50名	+3名
法人賛助会員	0名	±0名
合計	50名	+3名

5. 主たる事務所の状況

主たる事務所	京都市左京区北白川追分町京都大学理学部4号館天文台分室内
--------	------------------------------

注：平成25年7月24日付で、財団の主たる事務所の住所を、東京都品川区から京都市に移転登記した。(第2回評議員会決議による。)

6. 役員等に関する事項

役員

役職	氏名	就任年月日
代表理事	藤原 洋	平成23年12月2日
理事	舞原 俊憲	平成23年12月2日
理事	荻野 司	平成23年12月2日
監事	新井 佐恵子	平成23年12月2日

評議員

役職	氏名（降順）
評議員長	海部 宣男
評議員	狼 嘉彰
評議員	柴田 一成
評議員	杉山 直
評議員	林 正彦
評議員	福武 總一郎
評議員	吉田 道利

II. 事業の状況

1. 事業の実施状況

賛助会員や一般の天文ファンに対して、本財団が密接に連携している 3.8m 望遠鏡プロジェクトチームメンバーのブログを掲載することや不定期のニュースレターの発行、および当財団が共催する宇宙科学に関するイベント告知などをホームページ上で行っています。

平成 26 年度の前半は望遠鏡本体の建設経費が補正予算として認められたことを受けて、本格的に分割鏡の研削研磨工程が再開され、それまでに検討が行われていた鏡の支持機構の詳細設計、望遠鏡の方位軸構造物の詳細設計などが進捗しています。さらに年度の後半には平成 27 年度の概算要求が認められたことが分かって観測ドームの設計も進められています。

これらの状況を受けて、新しい望遠鏡の設置場所である浅口市における 3.8m 望遠鏡の新天文台を中心にした科学や天文関連の啓発活動に関する SARIF の活動の具体的な計画の策定を開始しつつあります。実際の活動時期は、望遠鏡がある程度日常的に稼働することができるであろう 1, 2 年後以降になると思われるが、例えば、年間を通じた観望会・講演会、近畿地区の小中学校の修学旅行の誘致、などを想定しています。

2. 役員会等に関する事項

当期に開催された理事会、評議員会、総会等は以下のとおりです。

開催日	会議名	議事事項等
平成 27 年 2 月 9 日	理事会	平成 25 年度の財務諸表と事業報告書及びこれらの附属明細書の審議。 平成 26 年度の評議員会招集について審議 平野事務局長の辞任の件と、次期事務局長の選任

Ⅲ. 法人の課題

新しい事務局長を中心に企画策定を今後より活発化させる必要があります。

また当財団法人が公益財団になるための条件を満たす努力を行うことが重要であり、そのため実質的に公益財団と同等の決算およびその公告を行うことが求められます。

財団の目的であった望遠鏡の製作に関する資金面の支援は、文科省を通して認められた概算要求等の措置が決まり、今後は 3.8m 望遠鏡の新天文台を中心にしたアウトリーチ活動を主に行っていくことになる。これまでに入会してくれた賛助会員の方々をはじめ、天文学に興味を広げるための観望会や講演会などのイベントへの招待を行う必要があります。